

花鳥風月・俳句

キンシバイ鮮やかさ増す雨上がり

高橋学

食事する三度の飯の有難い

竹の子のはかまをぬいで太くなる

すだれごし涼しい風の部屋に入る

日が長く一寸一ぷく夕飯とる

加藤イサ子

初歩き蛙の目玉笑いおり

今城宏子

風吹いて桜の絨毯咲き誇る

高橋恵子

君もきみも五月八日の深呼吸

越智和人

起立・礼背筋真っ直ぐ立葵

歳時記の手垢光るや初蛩

徳永誠一

句に生きる余生なりけり更衣

青空に形変へつつ夏の雲

鈴木伊都美

消防士今日は田植機操れる

夏負けの友を尻目にウオキング

三浦シズ子

山茶花の花満開に得意顔

青空を仰ぎ憲法記念の日

明星
勲

八十年戦なき世に手を合わす

田中
良子

誰も居ぬ暑き畑に蝉時雨

涼風やこころ染み入る雨の音

小野
弘幸

折れたりし紫陽花蕾挿し木して

梅雨晴間アカパンサスや揺れ動き

石井
トシ子

かたつむり孫のお相手頼みます

植えし田にさざ波涼し安堵する

落合 敦

渴水を耐え今日生きる夾竹桃

越智 恵美子

新聞のインクの残香梅雨の朝

アッ百足此畜生と踏み潰す

小林 泰子

洗濯の多忙に喘ぐ梅雨晴間

老ゆる手をすり抜け流れ夏の水

翡翠や青く線引くやうに飛び

小田 和子

春去りて鳥さえずるか戦下の待

白石

ノブ子

青嵐回す風車の白き羽根

せせらぎにふはり蛍の舞ひ始め

行って来てまた行って来て川蜻蛉

小田

慶喜